

お薬と食べ物・飲み物の関係

薬剤課 薬剤師 恒本 紗希



お薬が食べ物・飲み物の影響を受けるという話を耳にしたことはありませんか。お薬と食べ物・飲み物の組み合わせによっては、お薬の効き目が強くなりすぎたり、また反対に弱くなってしまうことがあります。効き目が強くなりすぎると副作用が現れやすくなり、それとは反対に効き目が弱くなるとお薬の本来の力が発揮されずに病気の治りが遅くなってしまうのです。

そこで今回は、どのようなお薬が食べ物・飲み物の影響を受けてしまうのかについてお話ししたいと思います。

食べ物の影響を受けてしまう代表的なお薬に「ワルファリン」があります。ワルファリンは血液をサラサラにする作用があり、

血液が固まって血管が詰まる病気を予防するお薬です。このワルファリンを飲んでいるときに納豆を食べてしまうと、ワルファリンの効き目が弱くなってしまいます。これは納豆に含まれるビタミンKがワルファリンに悪影響を及ぼしてしまうからです。納豆のほかにも、健康食品であるクロレラや青汁にもビタミンKが多く含まれているため、ワルファリンを飲んでいる方はこれらをとらないようにしてください。なお、緑黄色野菜にもビタミンKが含まれています。一般的なには一度に多くとり過ぎなければ問題はありませぬ。

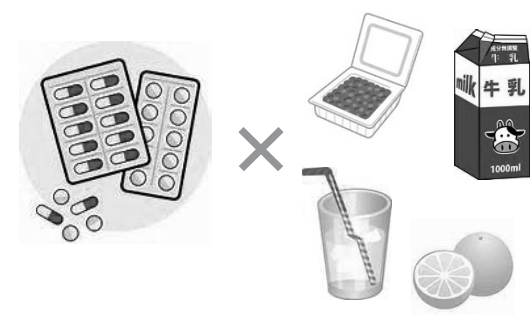
一方、飲み物の影響を受けてしまう代表的なお薬に血圧を下げる薬があります。これらの薬

の一部は、薬とグレープフルーツジュースを飲むと、血圧を下げる薬の効き目が強くなりすぎることが知られています。

このほかにも、熱を下げる薬の中の一部で、薬を飲んでいるときにお酒を飲んでしまうと、副作用が現れやすくなってしまうたり、寝つきをよくする薬を飲んでいるときにお酒を飲んでしまうと、効き目が強くなりすぎてしまうなど、生活にさまざまな危険性をもたらす可能性があります。また、抗生物質には牛乳と一緒に飲むことで効き目が弱くなってしまうものがあります。

このように、お薬と食べ物・飲み物の組み合わせによっては好ましくない影響が出ることも

ありますので、お薬を受け取るときに薬剤師からの説明をしっかりとして聞いていただくのと併せて、お薬の説明書に書かれている内容もよく読むことをお勧めします。



● 7月の救急医療機関 ●

平日

電話で時間外診療の協力医療機関をお知らせします。
時間外夜間急病テレホンセンター
TEL22-2299

休日

【内科・小児科】

診療時間 8時30分～翌日8時30分
市立病院
TEL22-4311 (大町2-2)

【外科】

診療時間 8時30分～翌日8時30分
3日(日) 市立病院
10日(日) 市立病院
17日(日) 滝川脳神経外科
18日(月) 市立病院
24日(日) 市立病院
31日(日) 滝川脳神経外科
※市立病院
TEL22-4311 (大町2-2)
※滝川脳神経外科
TEL22-0250 (西町1-2)

【歯科】

診療時間 9時～12時
3日(日) あい歯科クリニック
TEL22-8500 (東町3-1)
10日(日) 西尾歯科医院
TEL23-4816 (栄町2-3)
17日(日) スマイル歯科
TEL74-5028 (本町2-4)
18日(月) ひらやま歯科
TEL72-2323 (新十津川町中央83)
24日(日) みやこし歯科診療所
TEL75-5330 (江部乙町東12-1)
31日(日) しらかば歯科
TEL76-4181 (新十津川町中央308)